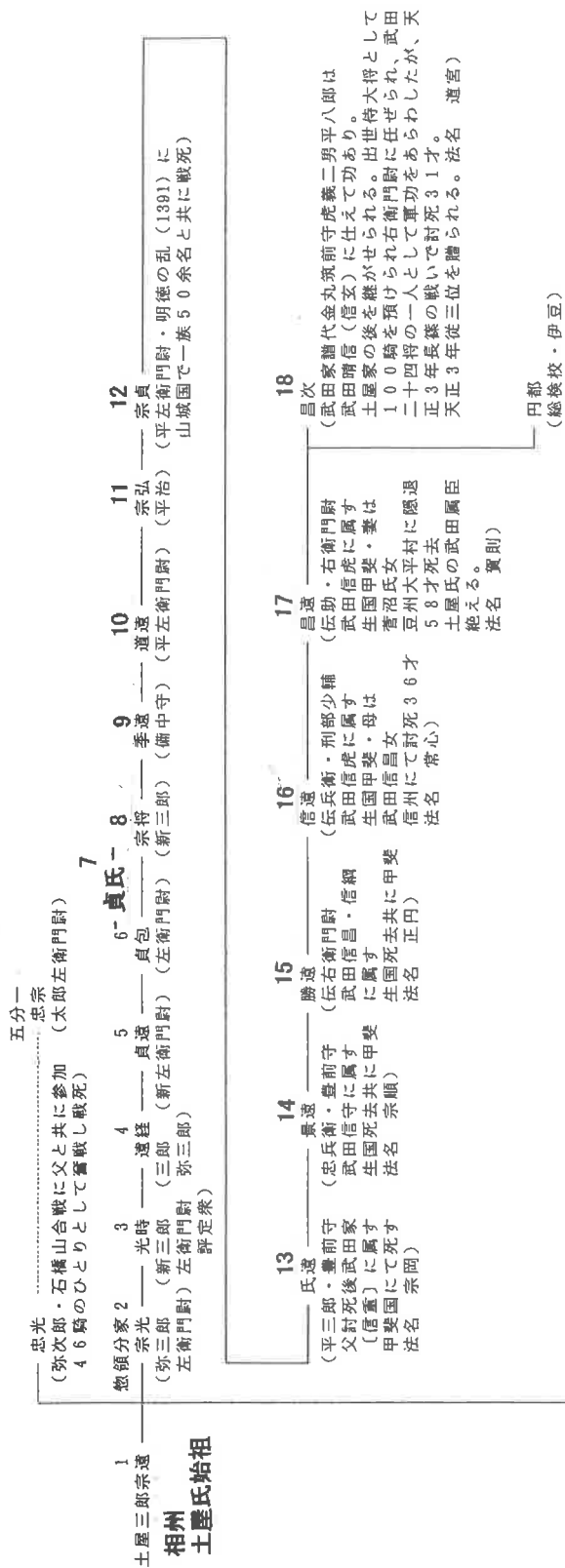
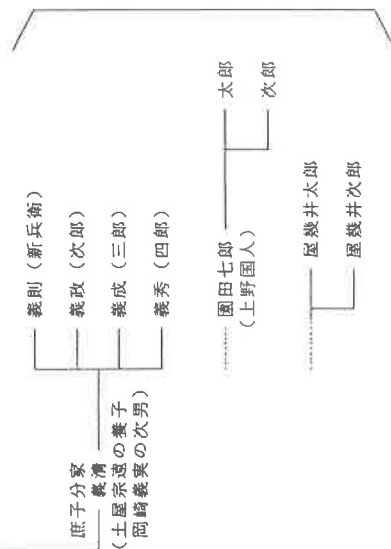


(4) 土屋氏の系図 (その1)

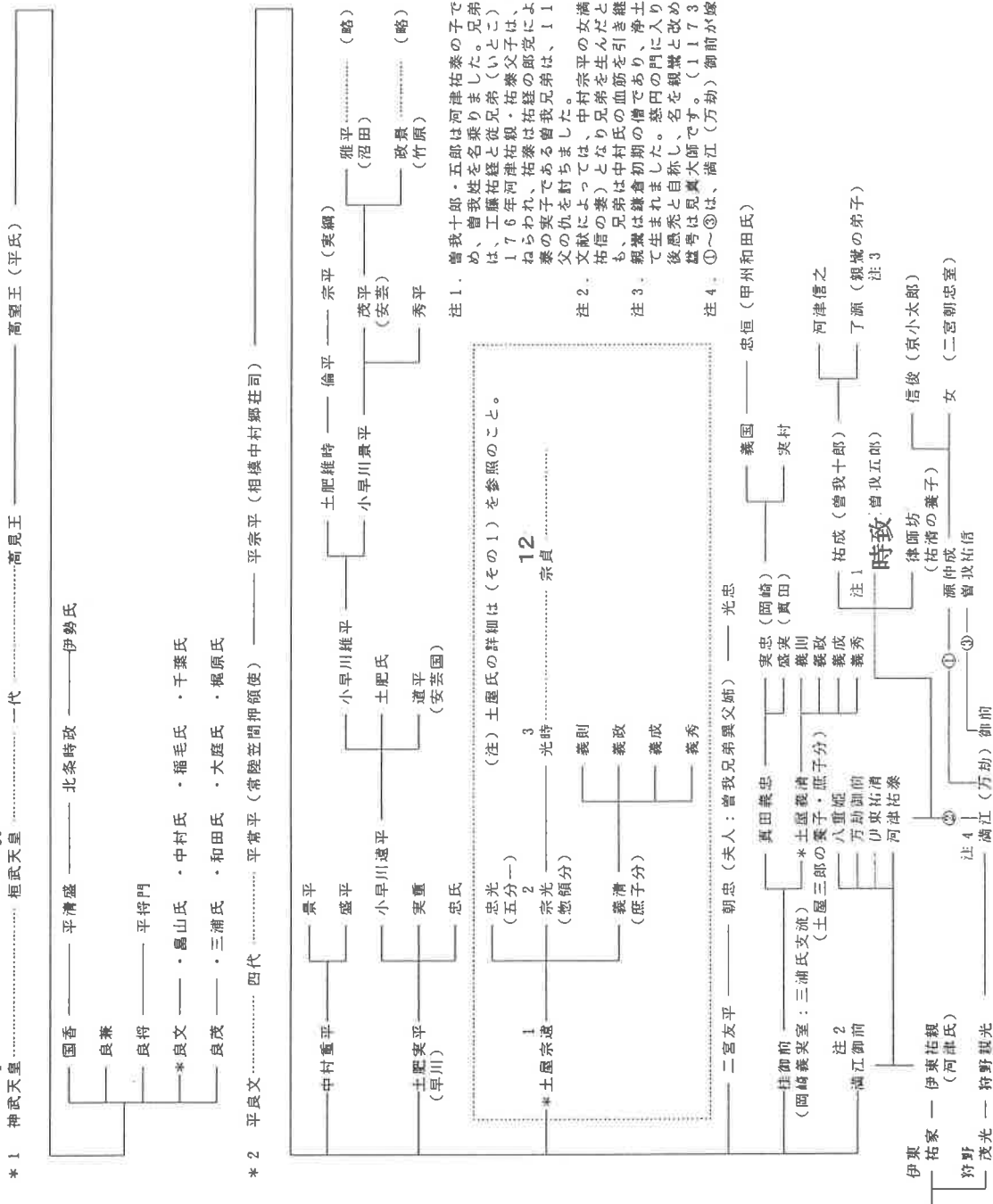


(注)土屋三郎宗遠から12代目ころまでは、土屋郷に居住していたと思われます。



* 建暦3年(1213)5月2・3日の「和田の乱」に加わった「土屋の一党」(土屋の人々)として、この100人が命を落とした。園田氏・屋敷井氏の5人は、土屋一族と同隊となって戦った人々です。

(4) 土屋氏の系図 (その2)



注 1. 曾我十郎・五郎は河津祐泰の子で、母満江が後曾我祐信へ嫁したため、曾我姓を名乗りました。兄弟の父祐泰の父祐親 (兄弟の祖父) は、工藤祐経と従兄弟 (いとこ) です。領土争いが発端となり、1176年河津祐親・祐泰父子は、伊東の本領争いの件で工藤祐経にねらわれ、祐泰は祐経の郎党によって殺害されました。そこで、祐泰の実子である曾我兄弟は、1193年5月28日に、富士山麓で父の仇を討ちました。

注 2. 文獻によっては、中村宗平の女満江御前は、河津祐泰の妻 (後曾我祐信の妻) となり兄弟を生んだともいわれています。いずれにしても、兄弟は中村氏の血筋を引き継いでいることは確かです。

注 3. 親覺は鎌倉初期の僧であり、浄土真宗の開祖で日野有範の長子として生まれました。慈円の門に入り、後に法然の弟子となりました。後愚亮と自称し、名を親覺と改め、浄土真宗を開きました。

注 4. ①～③は、満江 (万劫) 御前が嫁いだ順を表します。

* 源氏の主な系図

